

次郎長地藏尊の略縁起

一、 次郎長は、文政元年正月元日（今より一四五年前、一八一七年）清水港に生れ、本名を山本長五郎と称し、三歳の時叔父の米間屋次郎八の養子となり次郎長を名乗る。資性温情、質実剛堅、幼にして仁侠に富み弱きを助け暴悪をくじくの気性旺盛なりき。

一、 穂北ほくたの久六は次郎長と親交の同僚なりしも各所にて不義、忘恩、暴力の行為多く常に次郎長より戒告されしを却って逆怨をなし更に次郎長の名声をねたみ次郎長をことごとく上司へ中傷、窮地に陥れるべくあらゆる悪計、姦謀をめぐらし殊に罪なき町人長兵衛を暗殺する等兇暴を極む。

一、 次郎長は大衆を救けんがため正義の決意を堅め安政五年十二月三十日夕、大政、石松、八五郎の三人の子分を伴ひ当市亀崎にて角力興行中の久六を呼出し当地乙川おつがわ（亀崎街道）にて待つ。久六は多勢の子分を引連れ来り次郎長に対し無礼極まる悪口雑言をあびせ刀を抜き次郎長に戦ひをいどむ。茲に於て次郎長は「勸善懲悪」、「破邪顕正」の信念の下に涙を吞んで久六の右腕を斬落す。（次郎長四十一歳）。

一、 この一戦の前久六を待つ裡道路の側に安置される地藏尊に久六克服の心願をかけ一心に勝利を祈願し遂に本望成就致した。爾来この地藏尊を「次郎長地藏」又は「勝軍地藏」、「心願成就の地藏尊」と敬崇し大衆諸人日夜参詣多く諸願満足、如意吉祥の三尊（阿弥陀、観音地藏）救済主として信仰篤し。

一、 明治初年亀崎街道は県道として拡張工事に伴ひ光照寺境内に移築し現在に及び、地方の一名所となる。

一、 次郎長は明治二十六年六月十二日七十四歳の天寿を完ふし清水港にて大往生の素懷を遂ぐ（歿后昭和三十七年にて七十一年目）

一、 次郎長の法名、碩量軒雄山義海居士と称し菩提寺清水市下清水梅蔭寺の境内に次郎長並に子分の仙右エ門、大政、小政、石松の墓標と次郎長の銅像と記念碑が安置され更に次郎長一家に関する文献、宝物展の会館あり。東海の遺蹟、観光地として名高く参拜者多し。

一、 追録 次郎長に懲らしめられた久六は子分とともに乙川の庄屋杉浦善次郎に訴え出でし処、却って庄屋より懇切な説諭を受け自己の罪惡をざんげし遂に倒る。依て光照寺第二十六世是興和尚の讀経の声とともに往生する。

（右は東海遊俠伝及口碑による）

昭和三十七年春